

平成18年度「専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する  
職業教育支援事業」成果報告書

事業名	ニートに対し充分就業可能な人材となる職業教育支援講座の研究・開発		
法人名	学校法人 東海学園		
学校名	神奈川情報文化専門学校		
代表者	理事長 中村 孝雄	担当者 連絡先	有賀 悟 TEL. 045-324-0011
<p>1. 事業の概要</p> <p>ニートに対して、専修学校が保有する就業のための専門知識、技術、技能を提供し、さらに社会人、企業人としての考えや行動が身につくことを目的とした職業教育講座を研究開発、実施した。本事業はニート対象という特異性を考慮し、ビジネス・スキルに偏ることなく、ヒューマン・スキル（マインド）の育成に力を入れた講座内容とした。コースは、2コース設置し、ITベーシックコースはPCスキル及びコミュニケーションスキルの育成を、Webコースは、Web技術の習得を目的とした。2コースとも就業支援講義を取り入れ、ビジネス・マインドの育成にも注力した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>事業の趣旨、目的の達成度として、8割と判断する。本事業は、ニート対象の職業教育であるため、まずは個人を就業が可能な状態にする事が先決と考え、あえてビジネス・スキルの授業時間を5割に抑え、残りの5割をビジネス・マインドの育成にあてた。授業当初は、ビジネス・マインドにあて、自己分析、自己理解、他者理解、そしてコミュニケーション、人間関係の重要性をレクチャー、体感できる講義内容とした。そのため、受講生同士のコミュニケーションが図られ、後半のビジネス・スキルの授業も円滑かつ、効果的に進むことができた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>教育プログラムとして、受講生の大半が満足してしているので、効果があったと判断する。詳しくは、別添資料のアンケート集計結果を参照されたい。</p> <p>③今後の活用</p> <p>今後も、NPO団体等との連携を強化していきたい。本事業において、専修学校をメインにおき、NPO団体等をアドバイザー役という位置づけにした。そのため、NPO団体等の指導育成方法を実際に活用する事はせず、専修学校職員が全ての授業を担当する事とした。授業は成功裏に終了したと判断しているが、実際に、NPO団体等が行っている、ニート等に対する指導育成方法をさらに研究開発し、部分的にNPO団体等職員による授業担当も重要と考える。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>課題としては、時間的な問題をどのようにクリアーするかが大きい。ニート育成であるため、長時間の授業は困難ではないかとの判断にて、1日3時限1ヶ月という枠組みで講座を実施した。予想通り、コミュニケーション能力の高い受講生からは、PCスキル、Webスキルの習得する時間が不足であったとの意見が多かった。他方、PC・Webスキル以前の受講生も存在し、混合した受講生の満足を得るため、また効果的な職業教育とするためには、受講生の選別が必要不可欠である。ただし、選別は可能であるが、実際のところ、講座を実際に行ってからではじめて、受講生のレベルを理解する事になり、机上の想定どおりには行かない。教員の技量によるところが多い。したがって、教員の資質の向上が、全てにおいて重要である。</p> <p>本事業の成果として、無業者や社会人向けの職業教育を展開する予定であるが、さらなる研究開発が必要である。また、当校専門学校生においても、ニートではないが就業するのには困難な学生が存在する。その学生達に、本事業内容を部分的に導入する予定である。</p>			

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ① 自立支援アドバイザー

個人的な相談、アドバイスは任意とし、別にスキルアップ相談として全員に実施した。それは、本人の意思を尊重すべきとの判断からで、スキルアップ相談であれば、特に問題なく相談可能となり、その中で、特に個別の相談がある場合は、その都度別に対応した。個別の相談は4名で、そのうち1名は本講座受講中に就職内定を頂いた。個別相談では、本人、家族、人間関係と多岐にわたり話し合うことができ、前向きな気持ちをもてたのではないかと思われる。いずれも、キャリアカウンセリングを超えた、心理カウンセリングを心得を持った者でなければ、対応が難しい内容であった。

#### ② 講座の実施

テーマ：「若年無業者のための1ヶ月就職支援講座」  
ITベーシックコースとWebコースの2コース  
期間：平成19年2月6日から平成19年3月6日 全20回  
受講生の属性：全員無業者、14名男性、9名女性 計23名 21歳から36歳、就業経験は19名  
場所：神奈川情報文化専門学校  
受講者の反応：就職支援を時間の半数としたため、専門知識・技術・技能の習得に時間が足りなかったとの意見があった。反面、就職支援の内容については、概ね良好である。今回は、コミュニケーション力の強化に注力した講座としたため、予想通りの反応であった。

#### ③ その他

事業の特色としては、コミュニケーション力を身に付けることを念頭においた。そのため、自己理解、他者理解、円滑な人間関係を構築するため、産業カウンセラーによる心理学的な側面からのアプローチを行った。また、ビジネススキルを専門知識として取り入れたが、その際、社会性を高めるためのグループワークを多く取り入れた。実証授業の最終課題として、グループによる、プレゼンテーションを実施し、企業人としての、問題解決、討議、まとめ、発表等を、PCを利用して行う手法を導入した。また、Webコースにおいては、Webサイトに受講生が作成したサイトを立ち上げる事ができた。